

矢作川(時瀬地区)における 置土実験について



令和3年8月

国土交通省 中部地方整備
局豊橋河川事務所

置土実験の目的・方法等

◆ 背景

矢作川では、上流の山地から河口・海岸まで、それぞれの領域において、土砂の移動によって生じた治水・利水・環境に関する多くの問題を抱えています。

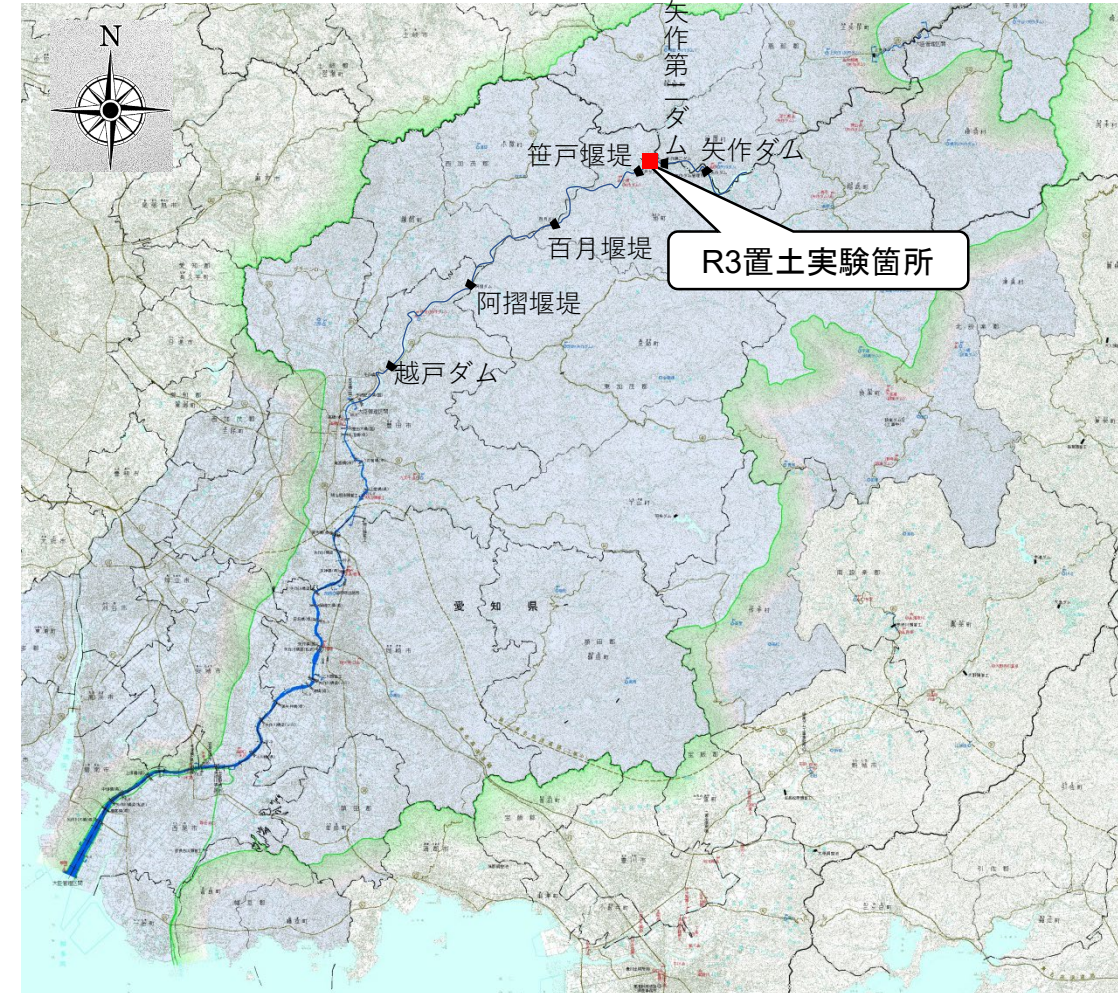
このような問題を、流砂系全体の問題として捉え、矢作川に関係する人々が一体となって解決し、よりよい矢作川を実現していくため、総合的な土砂管理を実施していく必要があります。

◆ 実験の目的

✓ 将来の矢作ダム堆砂対策実施時に近い状況を創出し、下流河川環境(物理・生態系)への総合的な効果や影響を確認・把握するために実施します。

◆ 実験の方法

- ✓ 今回(令和3年)は、時瀬河川敷公園前(上流側)で実施しています。
- ✓ 河川区域内の河原(中州)に土砂を置き、洪水時に自然流下させます。
- ✓ その効果や影響を確認・把握するために、物理環境調査や生物環境調査等を行います。



置土実験箇所



置土箇所



置土実験について

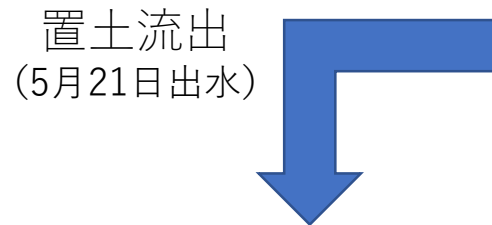
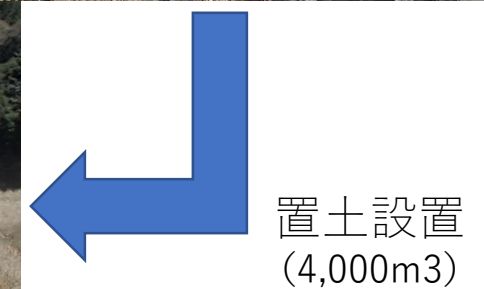
置土実験の実施状況・今後の予定

◆ 実施状況

- ✓ 令和3年3月に置土(約4,000m³)を設置しました。
(置土の土砂は、貯砂ダム上流の掘削土を使用)
- ✓ 令和3年5月21日の出水により、置土全量が流出(流下)しました。

◆ 今後の置土実験予定

- ✓ 次年度以降も引き続き、時瀬河川敷公園前に置土を設置します。
- ✓ 年度毎に土砂量を徐々に増やし、実験規模を大きくしていきます。
- ✓ また、他の箇所における置土実験も検討中です。



置土実験について

置土実験の実施状況 (斜め空中写真)

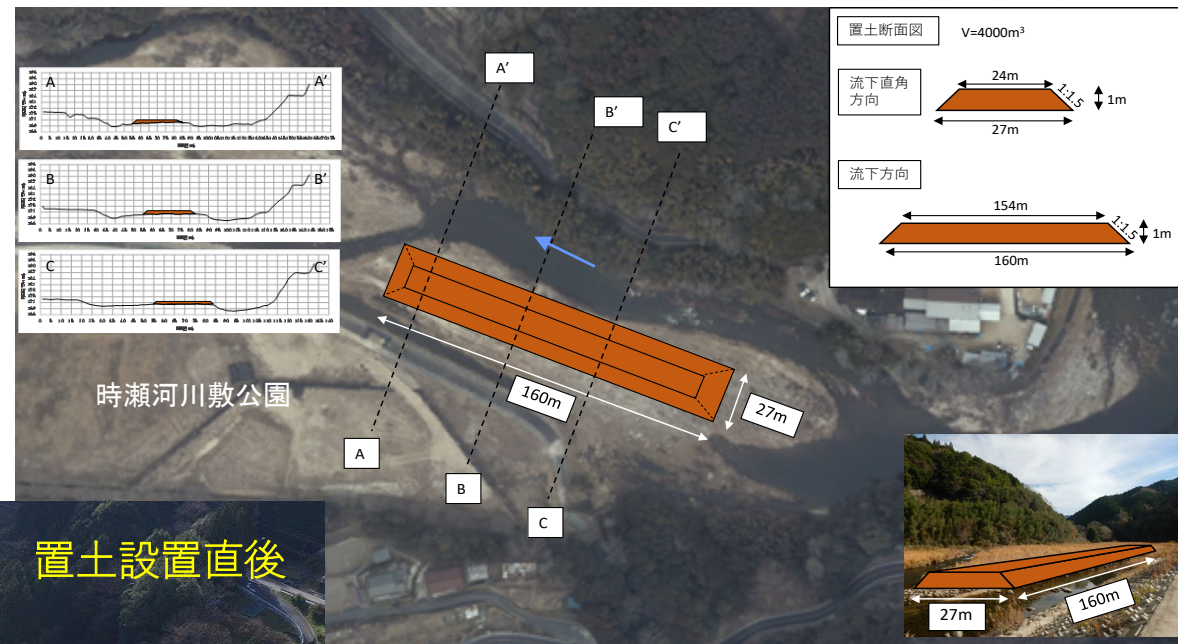


(2021年2月27日撮影)

置土設置
(4,000m³)



(2021年3月20日撮影)



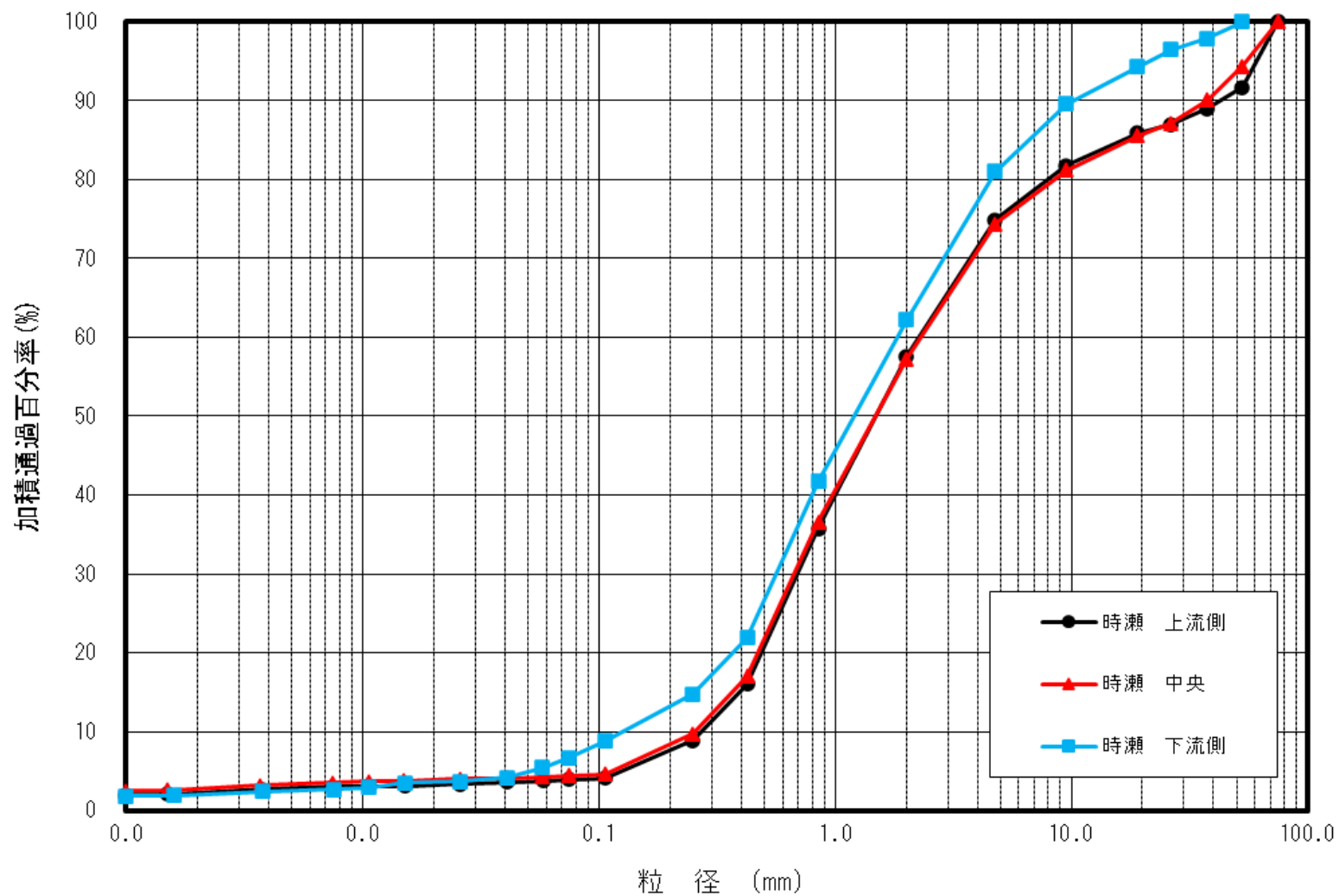
(2021年6月15日撮影)

置土流出
(5月21日出水)

笹戸堰堤

● 「時瀬地区」置土の粒度分布について

令和2年度末に時瀬地区に置いた土砂の粒径は、60%粒径が2mm程度、最大粒径が80mm程度です。



R2d末 時瀬地区置土の粒度分布